

Premier Guitar Premier Gear Award 2019 Jan.



Sadowsky MetroExpress Review

1999年ナッシュビルに転居する三ヶ月前、当時すでに業界内でスタジオワークだけでなくワールドツアーに帯同すべき楽器としての評価が確立された Sadowsky 5 弦ベースを初めてオーダーしました。その高い評価に全く違わなかったことは、その後も Sadowsky ベースを買い求め続けたことで明らかにした私が、新しく登場した MetroExpress の製品レビューすることに興奮を抑えることができませんでした。Sadowsky 公認のルシアアである、菊地嘉幸氏とのパートナーシップによる MetroExpress は、Sadowsky の名を冠した最初のファクトリーメイドモデルです。

ファーストインプレッション

ケースから楽器を出し初めて手に取った際、信じられないほどしっかりと丁寧に作られていると感じました。また、8.5 ポンド (3.85kg) の楽器がここまで軽くバランスが良いことにも驚かされました。見た目にも心引きつけられるサンバーストカラーにおけるボディエッジの処理も美しく、楽器としても完璧な製作工程を積み上げられています。MetroExpress のオプションは、リーズナブルな価格を保つために限定されています。アルダーボディ/モラードフィンガーボード、もしくはアッシュボディ/メイプルフィンガーボード、そして、6 色のカラーラインナップから選択できます。

そして、私は指板のアールに対してピックアップのポールピースが、適切な高さに設定されていることにも驚かされました。私が今まで遭遇してきた多くの 5 弦 J スタイルのベースは、ポールピースの高さがフラットなために 3 弦のサウンドが他の弦に対して弱くなっていましたが、このベースにはその問題は存在しませんでした。

MetroExpress には Sadowsky NYC 製品に使用されているものと同じプリアンプが標準搭載されています。私は今まで迷うことなくパッシブベースを選んできましたが、Sadowsky プリアンプは私が知りうる限り極めて稀な素晴らしいアクティブサーキットの一つです。ブーストされる中心周波数は実にうまく設計されており、アクティブトーンのトップエンドをカットできるパッシブトーンコントロールは、パッシブを好むユーザーにも重宝されるでしょう、そして多くのアクティブベースユーザーを生み出すでしょう。

トーンへの急行列車

私がリハーサル場所で MetroExpress を取り出した際、ネックサイズについてベーシストではない方から、疑問を投げかけられました。Sadowsky のボディがトラディショナルな J スタイルベースのボディより少しダウンサイズされていて、フェンダーを見慣れた人には指板幅（ナットで 1 7/8"）がより広がっているように見えたのでしょう。MetroExpress はその弦間ピッチとメイプルネックのおかげで、スラッププレイが非常に楽しいのです。

週の後半、ザ・ヴァイパー・ルーム（ハリウッドの著名ナイト・クラブ）で Gallien-Krueger Fusion 550 と 8 x 10 キャビネットを通して演奏を終えた後、ベーストーンに魅了された人々が私の元にやってきました。私はその人々に、ペダルも何も使用していないし、ただ新品の弦を張っただけの新しいリーズナブルな価格の Sadowsky であることを説明しました。そのギグの間や MetroExpress を弾いている時間の殆どで、本体に内蔵されているプリアンプでベースを僅かにブースト、パッシブトーンコントロールでトップエンドを僅かにカット、というセッティングにしていました。これはソフトに弾いた際に、ヴィンテージフェンダーの温かさを多くのシーンで発揮できる万能なセッティングです。もう少し力強く弾くと、中高音域において、ソリッドなローB など多くの魅力的なトーンを得られ、よく知られている Sadowsky のトーンが生まれます。

別のリハーサルで Ampeg V-4B と Ampeg SVT-610HLF キャビネットを使用して演奏していたとき、私は MetroExpress と、製造から 20 年近く使った私の Vintage 5 とを比較してみました。多くのアップテンポな曲において、MetroExpress はパンチがありブライトなトーンで私の好みでした。Vintage 5 はパーフェロー指板にアルダーボディのため、ある程度のトーンの違いは木材のキャラクターに因るものと思われます。しかし最終的に、私はこの新しいモデルにこれだけの戦闘力があることに驚きました。

総評

私はもうこのベースを手放せません。MetroExpress のルックスとフィーリングは、すぐ自分の物のように馴染みます。レビュアーとして私は技術的な部分とスペックに関する情報ばかり集めることに集中していましたが、楽器を演奏することの純粋な楽しさに気づき、時間を忘れて夢中になって演奏してしまいました。J スタイルのベースを熟知しているだけでなく、より弾きやすく確固たる個性をもった一本であるとも感じます。Roger Sadowsky は小さなモンスターを作ってしまったのかもしれませんが、NYC の僅か何割かのコストで同クオリティのサウンドを奏でる楽器を所有できてしまうのですから。実際のところ、もし "MetroExpress" の文字がヘッドに記載されていなかったら、多くのベーシストは Sadowsky のハンドメイドモデルと区別がつかないのではないのでしょうか。



レビュアー : Victor Brodén

ナッシュビルのベーシスト、プロデューサー、The Lowdown Society Podcast のホストを務める。LeAnn Rimes、Richard Marx、Casting Crowns、Randy Houser など、30 以上のメジャーレベルのアーティストのツアーサポート、レコーディングを行う。グラミー賞受賞アルバムや数々のテレビ番組、ネットワークトークショーへの参加も多数。